

## 編集後記

本号の巻頭言は杉浦教授にお願いいたしました。

「山野河海は永し、技術者人生は短し：災害・事故の予測と対策に向けて」と題して、将来の人口減少が問題視される昨今において、災害・事故の予測に取り組むことへの重要性を説いていただきました。先生にはご多忙のところ玉稿をお寄せ頂き、誠に有り難うございました。誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。

技術評論では「柔軟な思考ができる人材に！」と題して、川本専務より過去の貴重な経験談について玉稿を賜りました。自由かつ柔軟な発想で業務へ取り組んで行くことへの重要性を拝受いたしました。

我が国では、2023年は新型コロナウイルスが感染症法上の第5類へ移行し経済活動が回復傾向にあります。しかし、2024年元旦より能登地方を震源とする最大震度7の地震が発生するなど、大きな災害は常に日常生活を脅かし、ひとたび大規模災害が発生すればインフラ構造物にも多大な損害を与え経済活動にも大きな影響が生じるものとなっています。特に近年では供用後50年を経過した橋梁が増加傾向にあり、全国的に老朽化した橋梁の更新工事に取り組んで行かなければなりません。当社ではグループの経営理念に基づき、率先して橋梁の更新事業に取り組んで行き、本号においても、橋梁架け替えに関する工事報告を数件紹介させていただきました。

また昨今、建設業界では新たに2024年問題に対する働き方改革を推進していく必要があり、当社でも生産性を向上させるための一工夫として、昨年から継続してインフラ分野のデジタル・トランスフォーメーション（DX）を強力に推し進めております。ICT関連の技術、システムの実用化を順次進めており、昨年に引き続き「床版・橋面工CIMシステム（CIM-SLAB）」の第2弾を紹介します。

最後になりますが、執筆者を始め多くの関係者のご協力により本号を無事に発刊することが出来たことに深く感謝いたします。

## 宮地技報編集委員会

委員長	吉元大介			
副委員長	平島崇嗣	鈴木義孝	野澤栄二	
委員	相澤達也	清水達也	越中信雄	
	梅澤真悟	池田浩	嬉克徳	
	高野敦	永谷秀樹	藤井利明	
	松本博樹	宮下和義	村井向一	
	村上貴紀	高橋秀幸		
事務局	麓貴行	稲田博史	藤田学	

### 宮地技報 第35号

発行日 令和6年6月20日

発行所 宮地エンジニアリング株式会社

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町9番19号

TEL 03(3639)2111(代)

印刷所 望月印刷株式会社